

## 滋賀県内企業動向調査 ～2015年1-3月期の実績見込みと4-6月期の見通し～ **景況感は、4四半期連続のマイナス**

㈱滋賀銀行のシンクタンクである㈱しがぎん経済文化センター（大津市、取締役社長 中川 浩）では、滋賀県の景気動向を的確に把握するため、「滋賀県内企業動向調査」を実施しています。このほど2015年1-3月期分の調査結果がまとまりましたので、公表いたします。

### 【調査の概要】

- ・調査名：滋賀県内企業動向調査（2014年1-3月期）
- ・調査時期：2015年2月4日～3月6日
- ・調査方法：郵送による配布、回収
- ・調査対象先：滋賀県内に本社を置く企業および県外からの進出企業 937社
- ・回答数：404社（回答率38.1%）うち製造業181社、非製造業223社  
※今回から建設業は非製造業のうちの1業種に区分を変更しております。
- ・分析手法：DI（ディフュージョン・インデックス）  
質問における回答の選択肢「プラス（良い、増加等）」、「中立（不変、適正等）」、「マイナス（悪い、減少等）」のうち、「プラス」の回答割合から「マイナス」の回答割合を差し引いた指数。

### 【調査結果の要旨】

#### 1. 現在の業況判断（P2～4）

- ・今回調査（15年1-3月期）での自社の業況判断DIは、前回（14年10-12月期）の-8から4ポイント低下の-12となった。前回時点での見通し（-20）よりマイナス幅は縮小したが、14年4-6月期以降、「悪い」と答えた企業の割合が4四半期連続で「良い」を上回った。
- ・消費税増税から1年近く経過してもなお住宅関係や個人向けの商品・サービスを中心に需要不振が続いているようだ。また、今回は原油安の影響が注目されたが、「燃料費などの軽減により利益率が改善した」など、おおむね好意的な意見がみられた。また円安の進行は輸出取引のある企業には追い風となったが、内需型産業を中心に多くの企業では仕入価格の上昇要因として、利益面を圧迫した。人手不足も継続しており、厳しい経営環境が続いているようだ。
- ・業種別では、製造業は、前回の-10から4ポイント低下の-14となった。前回からは木材・木製品、精密機械、繊維で改善した。金属製品は横ばいだったが、他の業種は低下した。プラス水準は木材・木製品のみだった。
- ・非製造業は、前回の-5から5ポイント低下の-10となった。運輸・通信が好調を維持したが他は低調だった。
- ・3カ月後は、全体では5ポイント低下の-17とさらに悪化する見通し。一部の企業では回復の兆しがみられるが、先行きは不透明であるとの意見が多くみられた。

#### 2. その他の判断項目（P4～8）

- ・売上DI（前回：-2→今回：-12）は4四半期連続で低下した。
- ・仕入価格DI（+32→+27）は2四半期連続の低下となったものの、高止まりした。
- ・販売価格DI（-1→-4）は2四半期連続で低下した。
- ・経常利益DI（-8→-17）は4四半期連続で「減少」超過となった。
- ・製・商品の在庫DI（+7→+9）は2四半期振りに再び上昇し、過大感が強まった。
- ・生産・営業用設備DI（-1→-6）は4四半期振りに低下し不足感が強まった。
- ・雇用人員DI（-26→-21）は3四半期振りに上昇したものの、大幅な不足が続いた。

#### 3. 設備投資の実施状況（P9・10）

- ・設備投資を実施した（する）企業の割合は50%で、前回（49%）に続き高水準となった。
- ・主な内容（複数回答）は、「生産・営業用設備の更新」（39%）が最多。「生産・営業用設備の新規購入」（33%）、「車両の購入」（31%）が続いた。

【お問い合わせ先】 ㈱しがぎん経済文化センター 産業・市場調査部 中村（TEL：077-523-2245）

# 1. 自社の業況判断

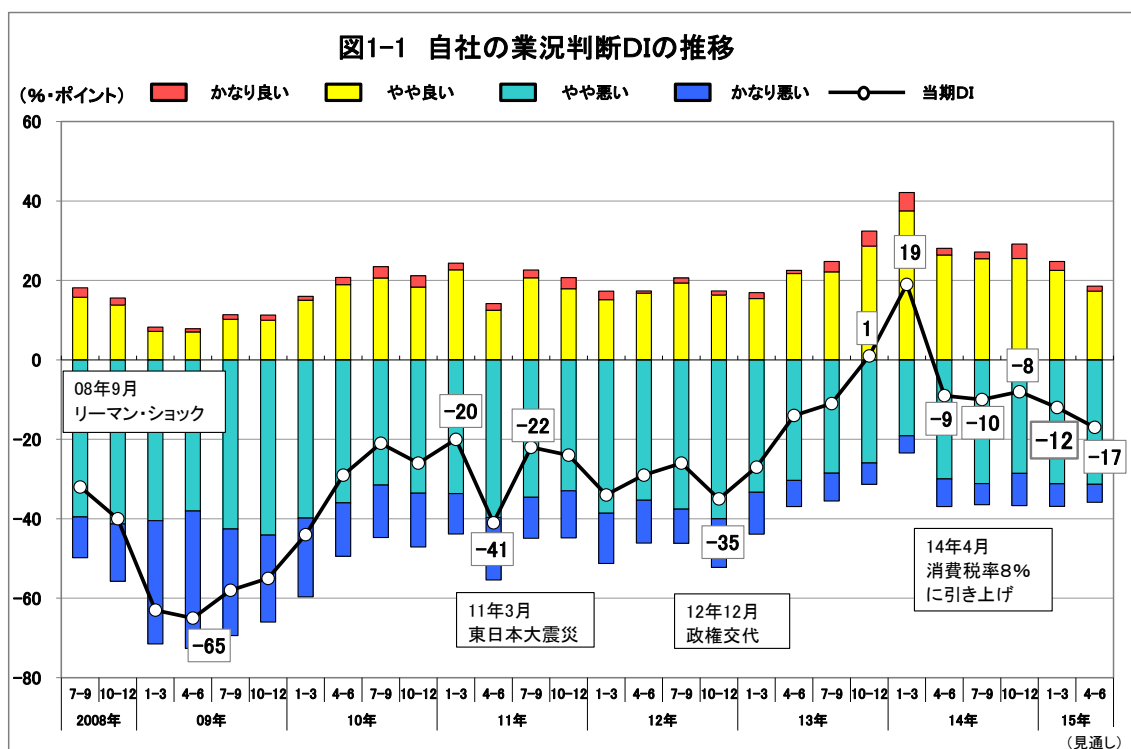
## (1) 自社の業況判断DI…4四半期連続でマイナス水準が続く

### ①全体の動向 (図1-1)

今回調査(15年1-3月期)での自社の業況判断DIは、前回(14年10-12月期)の-8から4ポイント低下し、-12となった。前回時点での見通し(-20)よりマイナス幅は縮小したが、14年4-6月期以降、「悪い」と答えた企業の割合が4四半期連続で「良い」を上回った。

消費増税から1年近く経過してもなお住宅関係や個人向けの商品・サービスを中心に需要不振が続いているようだ。また、今回は原油安の影響が注目されたが、「燃料費などの軽減により利益率が改善した」など、おおむね好意的な意見がみられた。円安の進行は輸出取引のある企業には追い風となったが、内需型産業を中心に多くの企業では仕入価格の上昇要因として、利益面を圧迫した。人手不足も継続しており、厳しい経営環境が続いているようだ。

3カ月後は5ポイント低下の-17と、なお悪化する見通しを示した。



②業種別の動向 (図1-2、表1)

業種別にみると、製造業は、前回の-10から4ポイント低下の-14となった。前回からは木材・木製品、精密機械、繊維で改善した。金属製品は横ばいだったが、他の業種は低下した。プラス水準は木材・木製品のみで、理由には「海外向け商品の受注増加を見込む」などがあがった。

非製造業は、前回の-5から5ポイント低下の-10となった。運輸・通信は、「倉庫・トラックの稼働率上昇」や「3月決算企業からの受注増加」などで唯一好調を維持した。卸売と小売では前回から10ポイント超の改善となるも、依然低水準にとどまった。他の業種では前回から低下した。

3カ月後は、製造業が現在から1ポイント低下の-15、非製造業は9ポイント低下の-19と、一部を除いて多くの業種で低下する見通した。

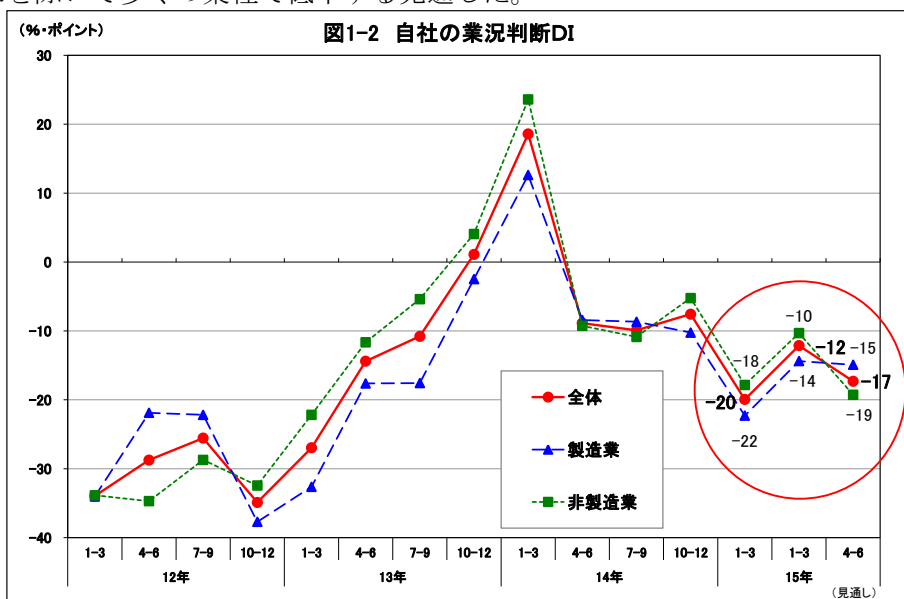


表1 自社の業況判断の推移(業種別詳細)

業種(※1)	今回の回答社数	14年 10-12月期 前回	15年 1-3月期 今回(※2)	4-6月期 見通し
<b>全体</b>	<b>404</b>	<b>-8</b>	<b>-12 ( -20 )</b>	<b>-17</b>
<b>製造業</b>	<b>181</b>	<b>-10</b>	<b>-14 ( -22 )</b>	<b>-15</b>
繊維	26	-11	-8 ( -17 )	-23
木材・木製品	14	-55	7 ( -36 )	0
紙・パルプ	6	-60	-83 ( -80 )	-33
化学	9	-10	-33 ( -40 )	-22
窯業・土石	6	-25	-33 ( 0 )	-17
非鉄金属	6	14	-17 ( -14 )	-17
食料品	13	-10	-23 ( 20 )	15
金属製品	20	0	0 ( -36 )	-30
一般機械	16	5	-13 ( -26 )	-50
電気機械	8	10	-50 ( -20 )	-25
輸送用機械	9	0	-11 ( -25 )	-44
精密機械	5	-29	0 ( -71 )	0
その他の製造業	41	-6	-7 ( -9 )	7
<b>非製造業</b>	<b>223</b>	<b>-5</b>	<b>-10 ( -18 )</b>	<b>-19</b>
建設	64	15	-3 ( -7 )	-32
不動産	10	0	-20 ( -38 )	-20
卸売	45	-45	-31 ( -33 )	-16
小売	40	-39	-25 ( -32 )	-16
運輸・通信	14	50	50 ( 14 )	-14
サービス	41	0	-5 ( -14 )	-8
その他の非製造業	7	14	-14 ( -29 )	-14

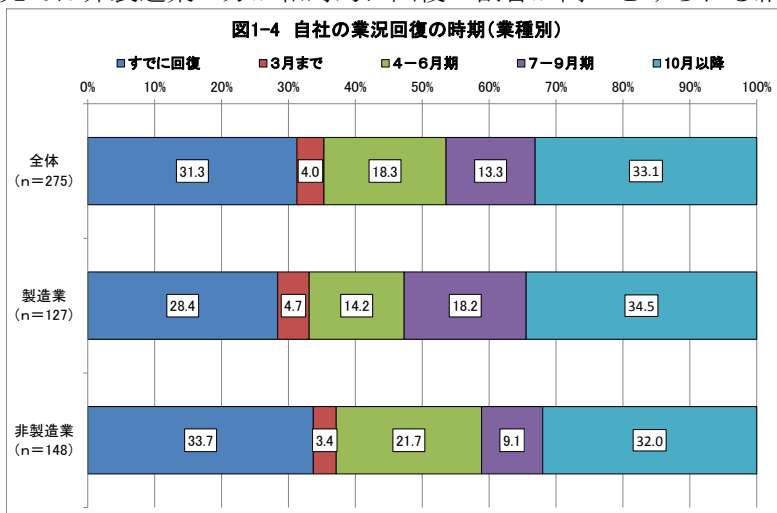
(※1) 回答数が3社以下の4業種(石油・石炭、鉄鋼、電気・ガス、リース)は非表示

(※2) ( )内の数値は前回調査時点での1-3月期の見通し

## (2) 自社の業況回復の時期…すでに回復は約3割

自社の業況回復の時期をみると、「すでに回復」している企業の割合は31.3%と約3割だった。「3月まで」(4.0%)を合わせても35.3%にとどまった。一方で半年以上先の「10月以降」も33.1%と約3割で、一部では業績不振が続くとみられる。

業種別では、「すでに回復」している企業の割合は、製造業の28.4%に対し非製造業は33.7%と、足元では非製造業の方が相対的に回復の割合が高いとみられる結果となった。



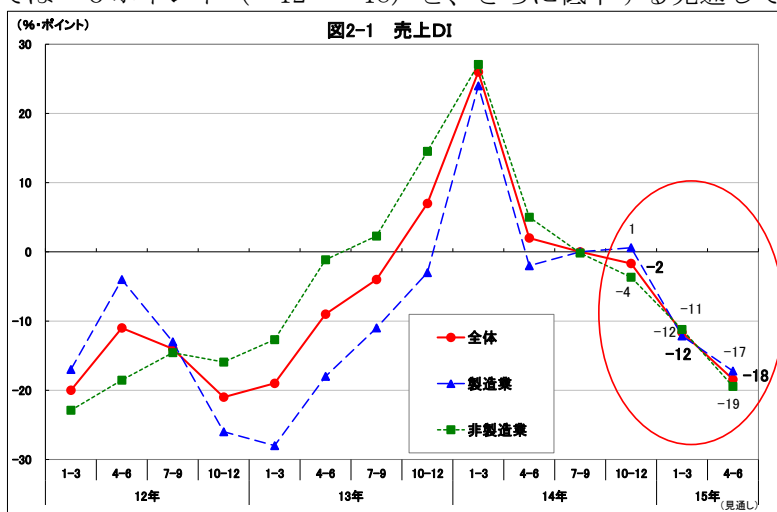
## 2. その他の判断項目

### (1) 売上DI…4四半期連続で低下

現在の売上DI(「増加」と回答した企業の割合から「減少」と回答した企業の割合を引いた値)は-12で、前回の-2からマイナス10ポイントと、4四半期連続で低下した。

業種別にみると、製造業は-13ポイント(+1→-12)で大幅に低下し、マイナス水準となった。繊維、精密機械などで上昇したが、電気機械、紙・パルプ、非鉄金属、食料品などで大幅に低下した。非製造業は-7ポイント(-4→-11)で、4四半期連続で低下した。運輸・通信、不動産、サービスはプラス水準にとどまったが、他の業種は大幅なマイナス水準となっている。

3カ月後は、製造業は-5ポイント(-12→-17)、非製造業は-8ポイント(-11→-19)で、全体では-6ポイント(-12→-18)と、さらに低下する見通しである。

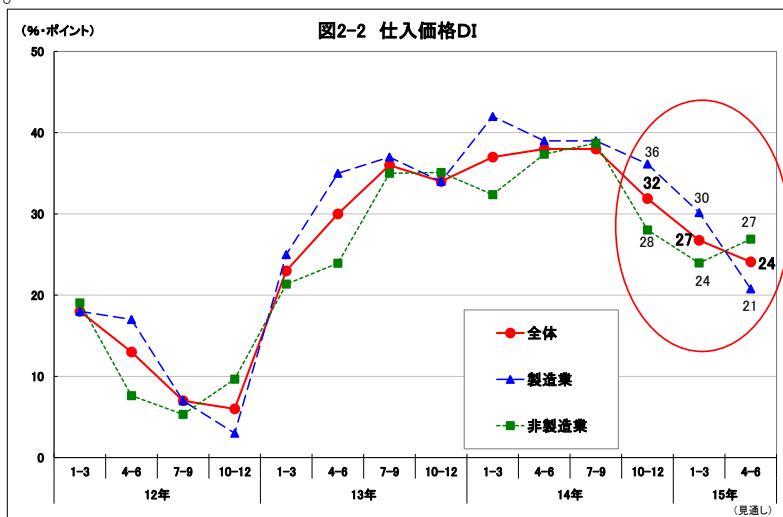


**(2)仕入価格DI…2四半期連続で低下するも、厳しい状況が続く**

現在の仕入価格DI（「上昇」と回答した企業の割合から「下落」と回答した企業の割合を引いた値）は+27で、前回の+32からマイナス5ポイントと2四半期連続で低下したものの、厳しい状況が続いている。

業種別にみると、製造業は-6ポイント（+36→+30）だった。窯業・土石、繊維、食料品では+40以上で高止まりした。紙・パルプや化学、電気機械では持ち合いまで低下したが、「下落」超過の業種は無かった。非製造業は-4ポイント（+28→+24）と低下した。運輸・通信のみ大幅に低下し「下落」超過となったが、他は高止まりしている。

3カ月後は、製造業は-9ポイント（+30→+21）と低下するが、非製造業は+3ポイント（+24→+27）と上昇し、全体では-3ポイント（+27→+24）と小幅な低下にとどまる見通しである。

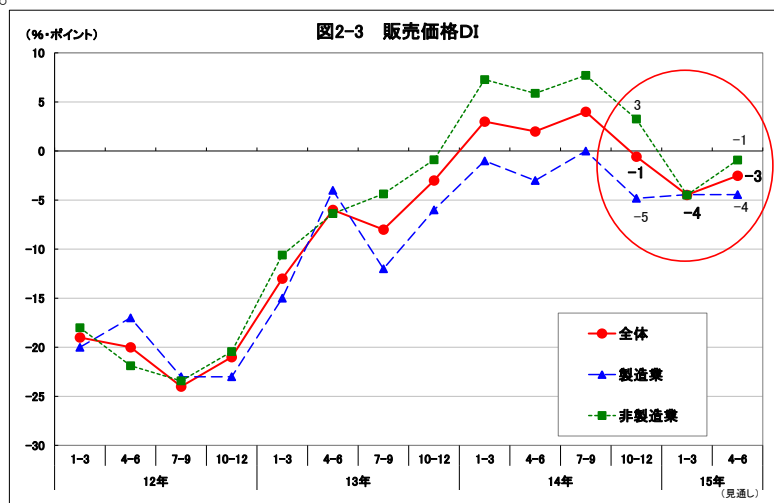


**(3)販売価格DI…2四半期連続の低下、仕入価格との差は詰まらず**

現在の販売価格DI（「上昇」と回答した企業の割合から「下落」と回答した企業の割合を引いた値）は前回の-1から3ポイント低下の-4で、仕入価格との差は詰まらなかった。

業種別にみると、製造業は+1ポイント（-5→-4）とほぼ横ばいだった。プラス水準は繊維と木材・木製品のみで、窯業・土石、電気機械、食料品などは大幅なマイナス水準となっている。非製造業は-7ポイント（+3→-4）で、マイナスに転じた。プラス水準は運輸・通信とその他の非製造業のみで、建設、卸売、小売はマイナスとなった。

3カ月後は、製造業は横ばい（-4→-4）だが、非製造業は+3ポイント（-4→-1）と上昇し、全体では+1ポイント（-4→-3）と、ほぼ横ばいで価格転嫁の進展は厳しい見通しである。

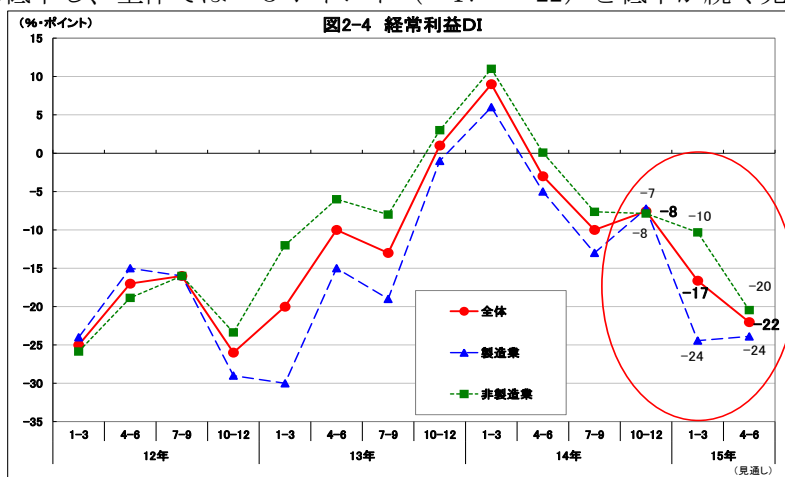


#### (4)経常利益DI…再び低下、4四半期連続のマイナス水準

現在の経常利益DI（「増加」と回答した企業の割合から「減少」と回答した企業の割合を引いた値）は-17で、前回の-8から9ポイント低下し、4四半期連続でマイナス水準となった。

業種別にみると、製造業は-17ポイント（-7→-24）と大幅に低下した。繊維は前期に引き続きプラス、木材・木製品は大きく改善したが、電気機械、非鉄金属、食料品などは大幅に低下した。非製造業は-2ポイント（-8→-10）と低下した。運輸・通信は好調を維持したが、他はマイナス水準となった。

3カ月後は、製造業は横ばい（-24→-24）だが、非製造業は-10ポイント（-10→-20）とさらに低下し、全体では-5ポイント（-17→-22）と低下が続く見通しである。

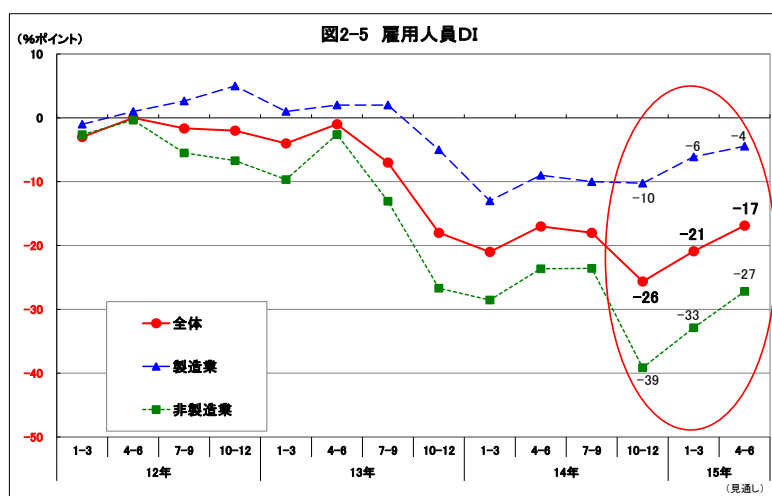


#### (5)雇用人員DI…3四半期振りに上昇も、人手不足が続く

現在の雇用人員DI（「過剰」と回答した企業の割合から「不足」と回答した企業の割合を引いた値）は-21で、前回の-26から+5ポイントと3四半期振りに上昇したが、12年7-9月期以降、11四半期連続でマイナス水準（人手不足）が続いている。

業種別にみると、製造業は+4ポイント（-10→-6）と上昇した。木材・木製品、非鉄金属、一般機械などで二けたのマイナス水準となった。一方で、輸送用機械のみ過剰が続いた。非製造業は+6ポイント（-39→-33）で改善に向かったものの、全ての業種で大幅なマイナスとなっている。

3カ月後は、製造業は+2ポイント（-6→-4）、非製造業は+6ポイント（-33→-27）で、全体では+4ポイント（-21→-17）と人手不足解消へ向けて上昇が続く見通しである。

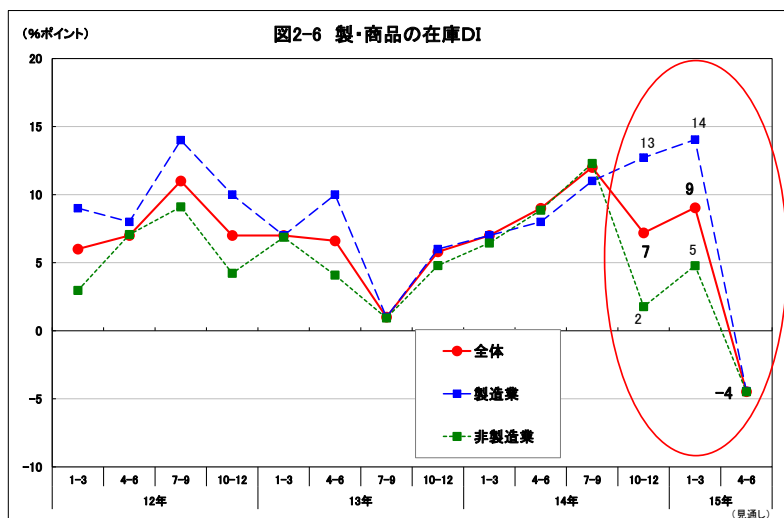


### (6) 製・商品の在庫DI…再び上昇、過大感が強まる

現在の製・商品の在庫DI（「過大」と回答した企業の割合から「不足」と回答した企業の割合を引いた値）は+9で、前回の+7から+2ポイントと再び過大感が強まった。

業種別にみると、製造業は+1ポイント（+13→+14）と6四半期連続で上昇した。繊維、木材・木製品、窯業・土石、金属製品、電気機械などで過大となったが、化学、非鉄金属、精密機械では不足感が強まった。非製造業は+3ポイント（+2→+5）と、再び上昇した。卸売と小売では過大な状態が続いているが、不動産は不足感が増した。

3カ月後は、製造業は-18ポイント（+14→-4）、非製造業は-9ポイント（+5→-4）とそれぞれ低下し、全体では-13ポイント（+9→-4）と、一気に不足に転じる見通しである。

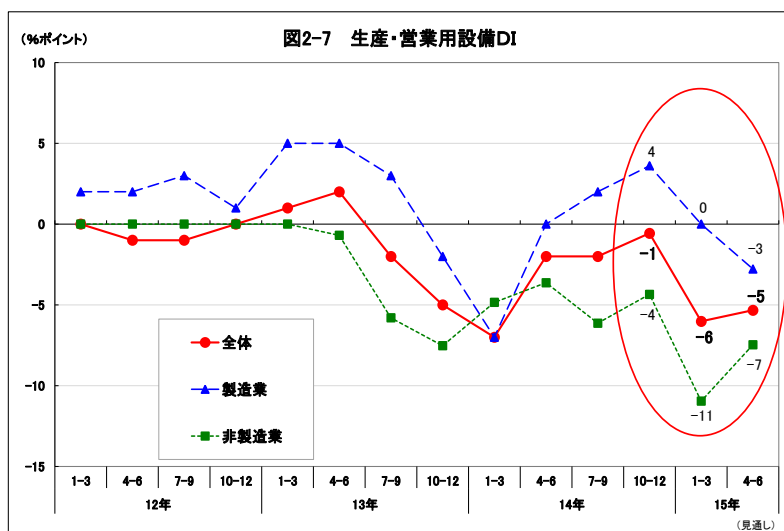


### (7) 生産・営業用設備DI…再び不足感が強まる

現在の生産・営業用設備DI（「過剰」と回答した企業の割合から「不足」と回答した企業の割合を引いた値）は、前回の-1から-5ポイントの-6と、再び不足感が強まった。

業種別にみると、製造業は-4ポイント（+4→±0）で4四半期振りに低下し、適正水準に戻った。繊維、紙・パルプなどは過大となったが、木材・木製品、一般機械、精密機械、その他の製造業は不足となった。非製造業は-7ポイント（-4→-11）で再び不足感が強まり、全ての業種で「不足」超過となった。

3カ月後は、製造業は-3ポイント（±0→-3）と低下するが、非製造業は+4ポイント（-11→-7）と上昇し、全体では+1ポイント（-6→-5）でほぼ横ばいとなる見通しである。



### 3. 設備投資の実施状況

#### (1)設備投資の実施割合…5割が実施、高水準が続く

今期（1-3月期）に設備投資を実施した（する）企業の割合は50%で、前回（49%）を上回り、比較可能な07年1-3月期以降では最も高くなった。

業種別にみると、製造業が前回と同じく54%と、3四半期連続で5割を超えた。一般機械では7割を超え、化学、窯業・土石、非鉄金属、輸送用機械、電気機械、金属製品、精密機械では6割以上となった。非製造業は+3ポイント（44%→47%）だった。その他の非製造業では7割、サービスと運輸・通信では5割を超えた。

3カ月後の設備投資実施予定の割合は、製造業、非製造業ともに41%で、全体では今期より9ポイント低下する見通しである。

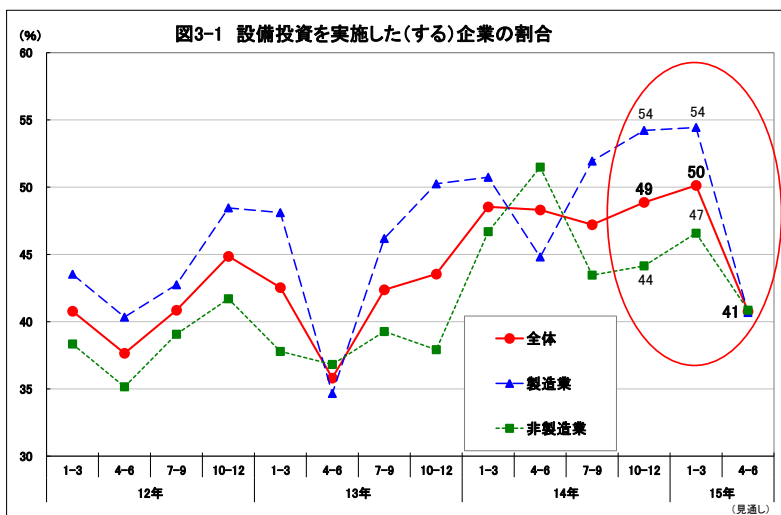


表3 設備投資を実施した(する)の企業の割合(業種別詳細)

業種(※)	14年 10-12月期 前回	15年 1-3月期 今回	4-6月期 見通し
<b>全体</b>	<b>49</b>	<b>50</b>	<b>41</b>
<b>製造業</b>	<b>54</b>	<b>54</b>	<b>41</b>
繊維	39	42	33
木材・木製品	55	43	14
紙・パルプ	20	20	40
化学	90	67	33
窯業・土石	75	67	83
非鉄金属	86	67	50
食料品	60	46	50
金属製品	57	60	50
一般機械	58	75	56
電気機械	50	63	38
輸送用機械	75	67	67
精密機械	29	60	20
その他の製造業	46	51	32
<b>非製造業</b>	<b>44</b>	<b>47</b>	<b>41</b>
建設	45	44	26
不動産	11	33	33
卸売	31	34	37
小売	48	44	50
運輸・通信	43	57	57
サービス	57	59	50
その他の非製造業	57	71	57

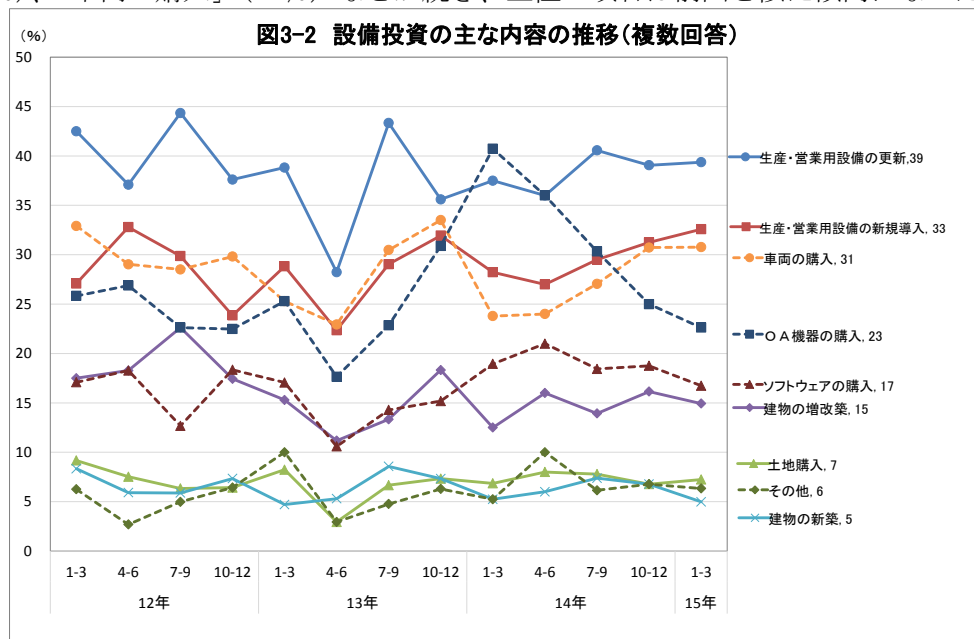
(※)回答数が3社以下の4業種(石油・石炭、鉄鋼、電気・ガス、リース)は非表示



(2)設備投資の主な内容…「生産・営業用設備の更新」が約4割で、三四半期連続トップ

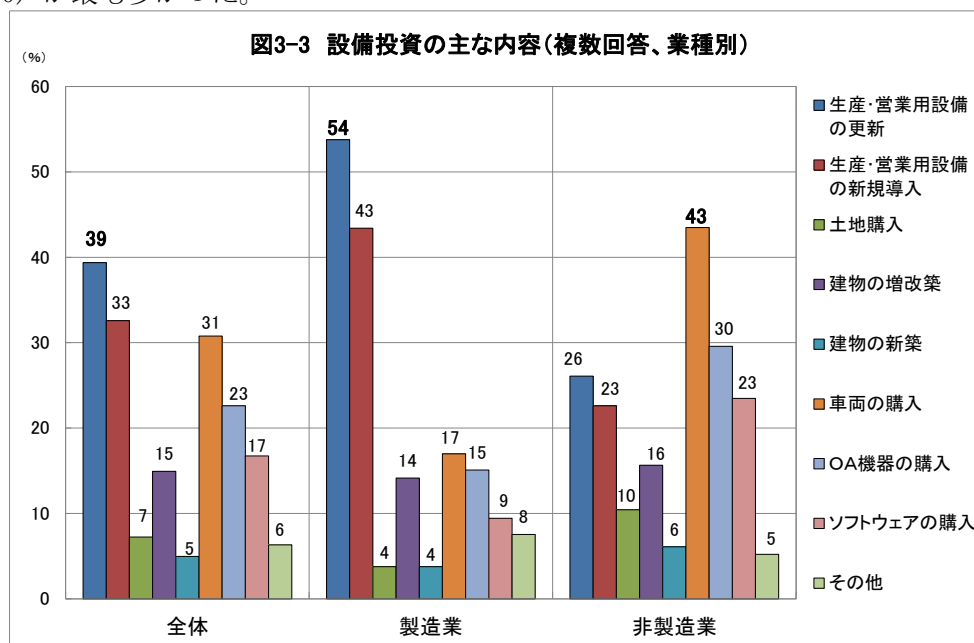
①全体の動向 (図3-2)

設備投資を実施した(する)企業のうち、設備投資の主な内容をみると(複数回答)、「生産・営業用設備の更新」(39%)が最も多かった。次いで「生産・営業用設備の新規購入」(33%)、「車両の購入」(31%)などが続き、上位の項目は前回と似た傾向になった。



②業種別の動向 (図3-3)

業種別にみると、製造業は「生産・営業用設備の更新」(54%)、非製造業は「車両の購入」(43%)が最も多かった。



【参考資料】

1. 現在の業況判断の根拠となる具体的な理由や背景（一部抜粋）

①「良い」（かなり良い+やや良い）

【製造業】

業種	意見
木材・木製品	大手取引先のうち、海外(アメリカ)が受注増加に伴い、当社関連商品の受注が見込まれる。
電気機械	民生用は売上げが減少傾向にあるが、業務用が伸びている。
金属製品	自動車、その他のモデルチェンジが多く、プレス金型の売上げが20%増加した。
金属製品	年度末予算事業のため生産が前年より30%増加した。
化学	設備投資効果にて高品質および生産の効率化が業績に寄与した。
その他の製造業	太陽光発電システム工事が増加した。
その他の製造業	新規取引先からの受注による売上30%増加した。

【非製造業】

業種	意見
建設	原油価格が下落したことにより、利益率が向上した。
建設	公共事業予算増加の影響で売上げが5%増加した。
建設	年度末で売上げが増加した。
運輸・通信	現在は倉庫・トラックの稼働状況は好調であるが、先行きは不透明。
運輸・通信	1月は営業日数の減少もあり、売上が減少、月次収益もマイナスだったが、2~3月は主力先の繁忙期であることが、月時損益も大きく改善できる見通し。
卸売	原油安により利益率が向上した。
卸売	太陽光関連の駆け込み受注で売上げが上昇した。
小売	原油安により、利益率、利幅ともに大幅アップした。
サービス	既存店の昨年対比売上げが堅調だった。

②「悪い」（かなり悪い+やや悪い）

【製造業】

業種	意見
繊維	消費増税の影響で、売上低迷が続いている。
繊維	原材料の高騰、電力料金の値上げが影響した。
木材・木製品	住宅着工数の減少で、住宅資源の売上げが20%減少した。
紙・パルプ	消費増税から売上げが1割強減少した。
化学	原油安の影響で再生油の単価(売上)が下落している。
食料品	天候不順により売上げが減少した。
一般機械	工事の慢性的な遅延により資材の出荷が少ない。
一般機械	円安による仕入価格の上昇を販売価格に転嫁できない。
精密機械	受注量が減少、人件費が増加した。
その他の製造業	増収減益。販売価格の競争により、利益率の確保が難しい。
その他の製造業	自動車関連、鉄鋼関連の受注減による売上げ減少があった。

【非製造業】

業種	意見
建設	従業員不足のため計画通りの受注が出来ない。円安の影響で一部物価が高騰し、利益が減少した。
建設	公共民間ともに土木工事の売上げが減少。入札物件価格が安値すぎる。
建設	問い合わせはあるが、客単価が低く契約に至らない。
不動産	1年前と比較して戸建て分譲住宅の販売が約35%ダウンした。
サービス	人手不足により、日曜日を定休日としているので、売上が減少している。
サービス	天候不順が土日に重なった。改装などにて売上げが減少した。
サービス	消費増税により、買い控えは進んでいる。そのため売上単価は減少し、減益となる。
卸売	消費増税の影響が残っている。社員育成教育の立ち遅れている。価格競争のあおりを受けた。
卸売	消費低迷の影響から回復しておらず、取引先全般の受注が減少している。
卸売	円安による輸入コスト上昇に対し、国内需要動向は節約志向等による減速感が強く、低調。
小売	消費者心理で購買意欲が高額商品へ目が向いていず、客単価の減少が続いている。
小売	消費増税の影響で顧客の需要に改善が見られない。前年比で売上が12%減少した。

2. DI回答一覧(業種別)

項目	自社の業況判断DI				売上DI				仕入価格DI				販売価格DI			
	前回		今回		前回		今回		前回		今回		前回		今回	
	14年 10-12	15年 1-3	15年 1-3	15年 4-6	14年 10-12	15年 1-3	15年 1-3	15年 4-6	14年 10-12	15年 1-3	15年 1-3	15年 4-6	14年 10-12	15年 1-3	15年 1-3	15年 4-6
調査時期	現在		見通し		現在		見通し		現在		見通し		現在		見通し	
対象期間	現在		見通し		現在		見通し		現在		見通し		現在		見通し	
現在/3カ月後の見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し
<b>全体</b>	<b>-8</b>	<b>-20</b>	<b>-12</b>	<b>-17</b>	<b>-2</b>	<b>-14</b>	<b>-12</b>	<b>-18</b>	<b>32</b>	<b>31</b>	<b>27</b>	<b>24</b>	<b>-1</b>	<b>-2</b>	<b>-4</b>	<b>-3</b>
<b>製造業</b>	<b>-10</b>	<b>-22</b>	<b>-14</b>	<b>-15</b>	<b>1</b>	<b>-11</b>	<b>-12</b>	<b>-17</b>	<b>36</b>	<b>34</b>	<b>30</b>	<b>21</b>	<b>-5</b>	<b>-3</b>	<b>-4</b>	<b>-4</b>
繊維	-11	-17	-8	-23	11	22	19	27	56	59	46	32	11	11	19	15
木材・木製品	-55	-36	7	0	-9	27	0	23	9	36	23	8	-9	0	23	8
紙・パルプ	-60	-80	-83	-33	20	40	-50	50	0	20	0	0	0	40	0	17
化学	-10	-40	-33	-22	-10	50	-44	56	60	40	0	-22	20	0	0	-22
石油・石炭	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
窯業・土石	-25	0	-33	-17	13	25	-33	33	63	50	50	33	13	0	-33	-33
鉄鋼	-25	-25	X	X	-50	50	X	X	25	0	X	X	0	0	X	X
非鉄金属	14	-14	-17	-17	-29	43	-100	67	43	14	33	0	14	0	0	-33
食料品	-10	20	-23	15	30	20	-31	38	40	30	46	15	-10	10	-23	0
金属製品	-0	-36	0	-30	7	64	-20	50	21	29	30	30	-14	0	-5	-10
一般機械	5	-26	-13	-50	11	26	0	38	42	53	31	38	-16	-16	-13	-6
電気機械	10	-20	-50	-25	10	50	-75	50	10	20	0	38	-30	-30	-25	-13
輸送用機械	0	-25	-11	-44	-38	50	-11	78	13	25	11	11	0	0	0	0
精密機械	-29	-71	0	0	-14	71	20	20	14	14	20	40	-14	-29	0	-20
その他の製造業	-6	-9	-7	7	0	24	5	27	46	29	38	18	-9	-6	-15	-7
<b>非製造業</b>	<b>-5</b>	<b>-18</b>	<b>-10</b>	<b>-19</b>	<b>-4</b>	<b>-17</b>	<b>-11</b>	<b>-19</b>	<b>28</b>	<b>28</b>	<b>24</b>	<b>27</b>	<b>3</b>	<b>-1</b>	<b>-4</b>	<b>-1</b>
建設	15	-7	-3	-32	8	36	-13	48	38	35	36	36	5	-5	-3	-5
不動産	0	-38	-20	-20	11	25	20	33	14	0	63	43	-11	-13	0	0
卸売	-45	-33	-31	-16	-42	45	-36	37	21	38	22	23	3	3	-9	2
小売	-39	-32	-25	-16	-23	39	-20	31	19	23	10	18	-10	3	-13	-3
運輸・通信	50	14	50	-14	43	23	43	36	20	20	-8	0	18	0	7	0
電気・ガス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
サービス	0	-14	-5	-8	8	44	2	26	38	26	26	32	9	0	0	3
リース	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
その他の非製造業	14	-29	-14	-14	-14	29	-14	29	0	0	29	29	0	-14	14	0

項目	経常利益DI				雇用人員DI				製・商品の在庫DI				生産・営業用設備DI			
	前回		今回		前回		今回		前回		今回		前回		今回	
	14年 10-12	15年 1-3	15年 1-3	15年 4-6	14年 10-12	15年 1-3	15年 1-3	15年 4-6	14年 10-12	15年 1-3	15年 1-3	15年 4-6	14年 10-12	15年 1-3	15年 1-3	15年 4-6
調査時期	現在		見通し		現在		見通し		現在		見通し		現在		見通し	
対象期間	現在		見通し		現在		見通し		現在		見通し		現在		見通し	
現在/3カ月後の見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し	現在	見通し
<b>全体</b>	<b>-8</b>	<b>-16</b>	<b>-17</b>	<b>-22</b>	<b>-26</b>	<b>-20</b>	<b>-21</b>	<b>-17</b>	<b>7</b>	<b>-1</b>	<b>9</b>	<b>-4</b>	<b>-1</b>	<b>-2</b>	<b>-6</b>	<b>-5</b>
<b>製造業</b>	<b>-7</b>	<b>-13</b>	<b>-24</b>	<b>-24</b>	<b>-10</b>	<b>-2</b>	<b>-6</b>	<b>-4</b>	<b>13</b>	<b>-5</b>	<b>14</b>	<b>-4</b>	<b>4</b>	<b>4</b>	<b>0</b>	<b>-3</b>
繊維	6	6	8	-27	-11	-6	-8	-12	6	0	19	15	22	22	12	4
木材・木製品	-45	-27	8	-23	-9	0	-15	-8	9	27	31	31	9	0	-8	-8
紙・パルプ	-20	-20	-33	-33	-20	0	0	0	0	-20	0	0	0	0	17	0
化学	0	-30	-22	-22	0	0	0	-11	20	10	-11	0	10	10	0	0
石油・石炭	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
窯業・土石	0	0	-33	-17	13	13	0	0	0	-13	17	0	-25	-25	0	-17
鉄鋼	-50	-50	X	X	-25	-25	X	X	0	0	X	X	0	0	X	X
非鉄金属	-29	0	-83	-67	-14	0	-17	0	-14	0	-17	-17	0	0	0	17
食料品	20	60	-54	-15	-40	0	-8	-15	-20	-10	0	0	0	0	0	-8
金属製品	7	-43	-45	-55	-29	0	0	15	21	-7	16	21	7	29	5	0
一般機械	-5	-5	-13	-25	5	11	-13	-6	5	11	0	0	0	5	-6	6
電気機械	-20	-70	-100	-25	10	0	0	-25	20	20	38	0	10	10	0	-13
輸送用機械	-25	-13	-22	-44	25	25	22	22	25	25	0	11	0	-13	0	0
精密機械	-29	-71	0	20	-29	0	0	20	17	0	-20	-20	-14	-14	-20	-20
その他の製造業	3	0	-20	-7	-17	-17	-12	-10	31	11	30	8	3	-3	-5	-7
<b>非製造業</b>	<b>-8</b>	<b>-19</b>	<b>-10</b>	<b>-20</b>	<b>-39</b>	<b>-36</b>	<b>-33</b>	<b>-27</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>5</b>	<b>-4</b>	<b>-4</b>	<b>-7</b>	<b>-11</b>	<b>-7</b>
建設	2	-19	-6	-29	-46	-44	-38	-34	-14	-17	-5	-2	-9	-9	-5	-3
不動産	0	-25	-10	-33	0	-14	-22	-13	-11	0	-20	-33	14	0	-13	-14
卸売	-42	-23	-20	-19	-12	-9	-13	-2	33	19	31	19	12	3	-11	-5
小売	-23	-29	-35	-18	-45	-35	-40	-41	10	10	13	13	0	-6	-10	-5
運輸・通信	50	15	50	-7	-54	-54	-43	-36	-22	-11	0	-15	-17	0	-14	-14
電気・ガス	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
サービス	0	-22	-2	-8	-47	-44	-39	-28	-3	0	-11	-6	-17	-17	-22	-18
リース	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X
その他の非製造業	-29	0	-29	-43	-57	-29	-29	-43	0	0	0	0	0	0	0	0

※回答数が3社以下の業種は非表示(Xと表示)